

【志木市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」において、子供たちには、生涯にわたって遭遇する課題や抱える悩みに真摯に向き合い、能動的に解決しながら生きていく姿勢が求められる。この基礎を養うため、学校では、誰一人取り残すことなく、児童・生徒一人ひとりが自らの希望や意思に基づいて学び、個性や能力を伸ばしていける教育が必要である。ICTの積極的な活用や情報活用能力の育成を重視する学習指導要領の趣旨や中央教育審議会答申で提唱された『「令和の日本型学校教育」を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）』の考え方を踏まえ、1人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、自ら成長し続ける子供たちの育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

志木市では、令和2年度以降、1人1台端末と高速大容量の通信環境を整備し、児童・生徒の1人1台端末や校内無線LAN環境、学習支援クラウドサービス等のICT環境整備に取り組んできた。こうした取組みにより、授業において、子供たちが端末を用いて自らの課題意識に基づき情報収集することや、クラウドを活用し資料を共同編集することなどもできる環境が整備された。

学習者用端末の活用については、GIGAスクールサポーターを派遣し、各学校に導入しているソフトウェアの効果的な活用について研修を行い、効果的な実践ができるようにしてきた。また、令和3年度から情報主任を中心とした志木市情報教育推進協議会において、「志木市GIGAスタンダード」を作成し、本市のGIGA端末等を活用し、どの教科、どの場面でどのように指導をするのかといった具体的な導入場面を実践事例集や手引き、ガイドラインとしてまとめ、1人1台端末の効果的な活用について支援を行ってきた。

多くの学校で授業や行事、校務等で端末の活用が拡大している。一方で、授業における授業支援ソフトや学習支援ソフトを活用については、学校間、教職員間で差が生じていることや、子供たちが「文房具」のように端末を日常的に活用するという点については改善を図っていく必要がある。

このような課題を改善するため GIGA第2期では、さらに研究を推進し、教師の指導観などを転換し、授業改善を図ることで、誰一人取り残さず、子供たち一人ひとりの力を伸ばしていくことを目指していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末を適切に整備・更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とした上で、以下のように1人1台端末の利活用を進めていく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

授業支援ソフトなどを活用することで、生徒一人ひとりのペースに合わせて学習を進め、生徒の主体的な学習意欲を高め、深い学びを実現することが期待できる。

さらに、教職員のICT活用能力の向上も不可欠である。教職員への指導や研修を行い、授業へのICT導入を支援する。これにより、教職員は端末を効果的に活用し、より魅力的な授業を展開できるようにする。

これらの取り組みを通じて、生徒は1人1台端末を「文房具」として、いつでもどこでも学習できる環境を整え、生徒の学習意欲を高め、学習効果を最大化することが期待できる。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が、自ら調べたり、考えをまとめたり、発表・表現したりする場面において、1人1台端末を活用し、より主体的に学習に取り組む授業づくりを推進していく。

また、授業支援ソフトを活用することで、教職員が児童生徒の学習状況を把握し指導援助に活かすことや、児童生徒同士が互いの考えに触れ自身の考えを広めたり深めたりしていく協働的な学び、児童生徒が自分のペースで課題に取り組める個別最適な学びを充実させる。

(3) 学びの保障

「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して一人ひとりの特性に合わせたきめ細やかな支援を行い、別室登校や不登校傾向の児童生徒に対して教室から離れていても学び続けられる環境を提供するなど、ICTの利活用を模索し多様なニーズに対応していく。